

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	専門職短期大学の設置							
フリガナ設置者	シズオカケン 静岡県							
フリガナ大学の名称	シズオカケンリツノウリンカンキョウセンモンシヨクダイガクタンキダイガクブ 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 (Shizuoka Professional University Junior College of Agriculture)							
大学本部の位置	静岡県磐田市富丘678-1							
大学の目的	将来の農林業現場を支える人材に求められる知識・技術を備えるとともに、農山村の景観・環境・文化等を理解し地域社会を支えていくことができる専門職業人の養成を通じ、静岡県の農林業や農山村地域の発展に貢献する。短期大学部は、農林業生産に関する実践的な技術や知識を修得した専門職業人を養成する。							
新設学部等の目的	農林業生産を行うための知識・技術を持ち、生産現場のスペシャリストとして即戦力となるとともに、生産現場のリーダーに必要な豊かな人間性を備え、現場の課題に対応できる先進的な生産知識や技術と、その応用力をもった人材を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	生産科学科 [Department of Agricultural Production]	2年	100人	-	200人	農林業短期大学士（専門職） [Associate degree of Agriculture]	平成32年4月 第1年次	静岡県磐田市富丘678-1
	計	-	100	-	200			
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	静岡県立農林大学校 養成部（廃止）（△100）※H32年4月学生募集停止 研究部（廃止）（△20）※H33年4月学生募集停止 静岡県立農林環境専門職大学 生産環境経営学部 生産環境経営学科（24）（平成30年10月認可申請）							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実習	計			
	生産科学科	44科目	15科目	18科目	77科目	68単位		

教員	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
新設	生産科学科		6 (6)	5 (5)	10 (9)	- (-)	21 (20)	- (-)	28 (23)
	計		6 (6)	5 (5)	10 (9)	- (-)	21 (20)	- (-)	28 (23)
既設	該当なし		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
	計		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
概要	合計		6 (6)	5 (5)	10 (9)	- (-)	21 (20)	- (-)	28 (23)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		静岡県立農林環境専門職大学と兼務含む
	事務職員		-		22		22		
	技術職員		-		15		15		
	図書館専門職員		-		2		2		
	その他の職員		-		5		5		
	計		-		44		44		
校地等	区分	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		静岡県立農林環境専門職大学(必要面積960㎡)と共用 平成33年度までは静岡県立農林大学校と共用
	校舎敷地	- ㎡	18,076 ㎡		-		18,076 ㎡		
	運動場用地	- ㎡	10,469 ㎡		-		10,469 ㎡		
	小計	- ㎡	28,545 ㎡		-		28,545 ㎡		
	その他	- ㎡	52,499 ㎡		-		52,499 ㎡		
合計	- ㎡	81,044 ㎡		-		81,044 ㎡			
校舎	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		静岡県立農林環境専門職大学(必要面積960㎡)と共用 平成33年度までは静岡県立農林大学校と共用	
	453 ㎡ (152 ㎡)	5,849 ㎡ (3,395 ㎡)		494 ㎡ (392 ㎡)		6,796 ㎡ (3,939 ㎡)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体	
	16 室	0 室	7 室		1 室 (補助職員0人)	0 室 (補助職員0人)			
専任教員研究室		新設学部等の名称			室数			共同研究室3室は静岡県立農林環境専門職大学と共用	
		生産科学科			22 室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	図書、機械・器具及び標本は静岡県立農林環境専門職大学と共用	
	生産科学科	12,816 [366] (7,689 [219])	40 [20] (40 [20])	20 [20] (20 [20])	64 (38)	975 (585)	2 (2)		
	計	12,816 [366] (7,689 [219])	40 [20] (40 [20])	20 [20] (20 [20])	64 (38)	975 (585)	2 (2)		

図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		662 m ²		60 席		50,000					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
		904 m ²		該当なし							
経 費 の 積 立 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コストを含む）を含む 図書及び設備は静岡県立農林環境専門職大学と共用のため、合算した金額	
		教員1人当り研究費等		250千円	250千円	－千円	－千円	－千円	－千円		
		共同研究費等		2,250千円	2,250千円	－千円	－千円	－千円	－千円		
		図書購入費	51,494千円	34,330千円	200千円	－千円	－千円	－千円	－千円		
	設備購入費	368,506千円	245,670千円	720千円	－千円	－千円	－千円	－千円			
学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		①県内の者 ②県外の者		
		①319千円 ②455千円	235千円	－千円	－千円	－千円	－千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			県費、雑収入等								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称		静岡県立農林大学校								
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	※平成32年度より学生募集停止(養成部) ※平成33年度より学生募集停止(研究部)
	養成部 研究部		年	人	年次 人	人	専門士 -	0.99 0.28	平成11年度 平成11年度	磐田市富丘678-1	
附属施設の概要		<p>[農場]</p> <p>① 名 称： 実習圃場 所在地： 静岡県磐田市富丘678-1 規模等： 建物：2,043m²、土地15,843m²</p> <p>② 名 称： 機械研修場 所在地： 静岡県掛川市下垂木2770-1 規模等： 建物：1,022m²、土地：36,656m²</p> <p>③ 名 称： 静岡県農林技術研究所（本所） 所在地： 静岡県磐田市富丘678-1 規模等： 建物：8,905m²、土地115,252m²</p> <p>④ 名 称： 静岡県農林技術研究所 茶業研究センター 所在地： 静岡県菊川市倉沢1706-1 規模等： 建物：5,900m²、土地：58,000m²</p> <p>⑤ 名 称： 静岡県農林技術研究所 果樹研究センター 所在地： 静岡県清水区茂畑 規模等： 建物：3,317m²、土地53,904m²</p> <p>⑥ 名 称： 静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 所在地： 静岡県浜北区根堅2542-8 規模等： 建物、土地：58,959m²</p> <p>[牧場]</p> <p>① 名 称： 静岡県畜産技術研究所（本所） 所在地： 静岡県富士宮市猪之頭1945 規模等： 建物：12,732m²、土地121.9ha</p> <p>② 名 称： 静岡県畜産技術研究所 中小家畜センター 所在地： 静岡県菊川市西方2780 規模等： 建物：9,282m²、土地9.3ha</p> <p>[演習林]</p> <p>名 称： 静岡県有林 所在地： 浜松市 規模等： 森林面積294ha</p> <p>※附属施設の概要については、「設置の趣旨等を記載した書類 資料26」参照</p>									

教育課程等の概要															
(生産科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
①基礎科目	教養	静岡学	1通	2			○			1					
		分子生物学	1夏	2			○								兼1
		保健体育	1通	2					○						兼1
		コミュニケーション論	1夏	1			○								兼1 集中
		英語基礎	1春・夏		1			○							兼1
		英語応用	1秋・冬		1			○							兼1
		情報処理演習	1通	2				○			1				
		簿記基礎	1春			1		○							兼1
		簿記応用	1夏			1		○							兼1
	小計(9科目)	-	9	2	2		-		1	1	0	0	0	兼5	
②職業専門科目	農林業基礎	農学概論	1春	2			○			2	1	1			兼8 オムニバス
		農林業史	1春		2		○								兼1
		農林業政策	1春		2		○								兼1
		県内農林業事情	1夏		2		○			5	2				オムニバス
		県外農林業事情	1夏			1		○		1	1	4			集中・共同
		海外農林業事情	2夏			1		○		2					集中・共同
		農林業のための科学	1春	1				○							兼1
		野生鳥獣管理・利用論	1冬		2			○		1					
		営農と農業関連法	1秋		2			○		2		3			兼3 オムニバス
	生産理論(栽培)	植物生理生態学	1夏		2		○								兼1
		土壌肥料・植物栄養学	1秋		2		○			1					兼1
		植物保護	1秋		2		○								兼1
		作物栽培	1秋		2		○				1				
		茶栽培	1冬		2		○				1				
野菜栽培		1冬		2		○			1						
果樹栽培		1冬		2		○			1						
花き栽培		1冬		2		○			1						
施設園芸		2夏		2		○			1						
先端栽培技術		2冬		2		○			1					兼1 オムニバス	
環境保全型農業論	2冬		2		○			1					兼1 オムニバス		
生産理論(林業)	森林計画学	1秋		2		○			1					兼2 オムニバス	
	造林学	1秋		2		○			1						
	森林生態学	2冬		2		○								兼1	
	樹木・組織学	1夏		2		○								兼1	
	木材生産システム	2春・夏		2			○		1	1				兼1 オムニバス	
	森林土木論(治山・林道)	1冬		2		○								兼1	
	植物遺伝育種学概論	1秋		2		○			1					兼1 オムニバス	
生産理論(畜産)	畜産概論	1夏		2		○			1						
	飼料総論	1秋		2		○			1						
	家畜生理解剖	1秋		2		○					1				
	家畜飼養	1秋		2		○			1						
	家畜育種繁殖	1冬		2		○				1					
	畜産法規	1冬			2		○		1						
	家畜衛生学	1冬		2		○								兼1	
	畜産環境・堆肥利用論	2冬		2		○			1						
	人工授精論	2秋			2		○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
生産技術	総合実習	1春・夏	2					○		2	8			兼4	オムニバス・共同(一部)	
	圃場実習Ⅰ(野菜)	1秋・冬		4				○		1	3			兼1	共同	
	圃場実習Ⅰ(花き)	1秋・冬		4				○	1	1					共同	
	圃場実習Ⅰ(茶)	1秋・冬		4				○		1				兼1	共同	
	圃場実習Ⅰ(果樹)	1秋・冬		4				○			1			兼1	共同	
	圃場実習Ⅰ(畜産)	1秋・冬		4				○			2			兼1	共同	
	演習林実習Ⅰ	1秋・冬		4				○		1				兼1	共同	
	圃場実習Ⅱ(野菜)	2春・夏・秋		6				○		1	3			兼1	共同	
	圃場実習Ⅱ(花き)	2春・夏		6				○	1	1					共同	
	圃場実習Ⅱ(茶)	2春		6				○		1				兼1	共同	
	圃場実習Ⅱ(果樹)	2春・夏		6				○			1			兼1	共同	
	圃場実習Ⅱ(大家畜)	2春		6				○	2	1	2			兼4	共同	
	圃場実習Ⅱ(中小家畜)	2春		6				○	2	1	3			兼3	共同	
	演習林実習Ⅱ	2春・夏		6				○		1				兼1	共同	
	企業実習	2春・夏・秋	10					臨	3	2	5					
大型機械実習	2春・夏・秋	2					○							兼1		
GAP演習	2春・夏・秋	1					○	1		1				兼1	オムニバス	
小計(53科目)		-	18	126	6	-			6	4	9	0	0	兼23		
③ 展開科目	農山村田園地域公共学	2冬	2					○			1					
	農と食の健康論	2冬		2				○						兼2	オムニバス	
	食品科学	1秋		2				○						兼1		
	食品加工演習	1秋・冬		2				○		1				兼1	共同	
	アグリフードシステム論	1秋・2夏		2				○						兼1		
	マーケティング・販売演習	2春・夏・秋	2					○			1			兼2	オムニバス・共同(一部)	
	流通加工論	2春・秋・冬		2				○						兼1		
	木材加工演習	1冬		2				○			1					
	木材利用・流通論	2夏		2				○			1				兼1	オムニバス
	農業経営	1冬		2				○		1						
	畜産経営	1冬		2				○		1						
	林業経営	1冬		2				○		1						
	畜産経営演習(大家畜)	2秋			2			○		1						
	畜産経営演習(中小家畜)	2秋			2			○			1					
小計(14科目)		-	4	20	4	-			2	2	4	0	0	兼6		
④ 総合科目	プロジェクト研究	2通	2					○	6	5	9	0	0			
	小計(1科目)	-	2	0	0	-			6	5	9	0	0	-		
合計(77科目)		-	33	148	12	-			6	5	10	0	0	兼28		
学位又は称号	農林業短期大学士(専門職)	学位又は学科の分野			農学関係											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p><卒業要件> 基礎科目より10単位以上、職業専門科目より46単位以上、展開科目より10単位以上、総合科目2単位を修得し、合計68単位以上とする。</p> <p>(基礎科目)必修9単位を含む10単位以上</p> <p>(職業専門科目)46単位以上 ■農林業基礎科目群:必修3単位を含む7単位以上 ■生産理論科目群:コースを選択し、選択必修2単位、コース必修を含む14単位以上 ○選択必修:植物生理生態学、樹木・組織学、畜産概論 ○栽培コース必修:土壌肥料・植物栄養学、植物保護、先端栽培技術、環境保全型農業論 ・野菜栽培、花き栽培、茶栽培、果樹栽培のいずれかを選択 ・「野菜栽培」、「花き栽培」を選択した者は、「施設園芸」を選択 ・栽培コースは「植物遺伝育種学概論」を選択できるものとする。 ○林業コース必修:森林計画学、造林学、森林生態学、木材生産システム、森林土木論(治山・林道)、植物遺伝育種学概論 ○畜産コース必修:飼料総論、家畜飼養、家畜生理解剖、家畜育種繁殖、家畜衛生学、畜産環境・堆肥利用論 ■生産技術から必修15単位とコース必修を含む25単位以上 ○栽培コース必修:いずれかの組み合わせで履修する ・「野菜栽培」:圃場実習Ⅰ(野菜)、圃場実習Ⅱ(野菜) ・「花き栽培」:圃場実習Ⅰ(花き)、圃場実習Ⅱ(花き) ・「茶栽培」:圃場実習Ⅰ(茶)、圃場実習Ⅱ(茶) ・「果樹栽培」:圃場実習Ⅰ(果樹)、圃場実習Ⅱ(果樹) ○林業コース必修:演習林実習Ⅰ、演習林実習Ⅱ ○畜産コース必修:圃場実習Ⅰ(畜産)と、圃場実習Ⅱ(大家畜)もしくは圃場実習Ⅱ(中小家畜)のいずれかを選択する。</p> <p>(展開科目)必修4単位及びコース必修を含む10単位以上 ○栽培コース必修:農業経営、流通加工論 ○林業コース必修:木材加工演習、木材利用・流通論、林業経営 ○畜産コース必修:畜産経営、流通加工論</p> <p>(総合科目)プロジェクト研究を2単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:45単位(年間))</p>	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分

授 業 科 目 の 概 要

(生産科学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目 教養	静岡学	静岡県はものづくり県であり、産業界を牽引する数多くの業種の企業が存在し、ヒト、モノ、カネの経営資源の奪い合いが起こっている。このような中で農林業経営を行うには、農林業の枠内にとどまらず、他産業の情勢、動向を理解する必要がある。本科目では、静岡県の農業、林業などの一次産業、製造業などの第二次産業、卸売業・小売業・サービス業などの第三次産業の各界のトップランナーを招聘し、講話を聴講する。その上で、グループ・ワークと発表を通じ、今後の静岡県のものづくりのあり方や発展に向け、生産現場は何か出来るかを考える。	大学との合同授業 同時に行う学生数: 124人 ・各界のトップランナーの講話を聴講する貴重な機会であり、教育上必要である。 ・グループ・ワークは大学と短期大学のそれぞれのグループで行うが、発表は同じ会場で行うため、多様な意見に触れることが出来て、かつ、交流も進むため、教育効果が高い。 ・大学と短大でそれぞれ教員を配置しており、達成目標も異なっているため、教育水準は担保される。
	分子生物学	20世紀中頃に生物の遺伝情報をコードするDNAの構造が解明され、21世紀に入ると様々な生物のゲノム情報の解明が進むことにより、生理、生態、発生、行動、遺伝、進化といった生物に関わる様々な現象が分子レベルで明らかにされるようになってきた。したがって、分子生物学は生物に関わる多くの分野において必要とされる基礎知識となっている。本科目は、細胞をベースにDNA、遺伝子、ゲノム、タンパク質の構造や機能を理解し、生命現象を分子レベルで考察するために必要な知識を修得することを目標とする。	
	保健体育	充実した生活を送るためには、心身の健康は欠かすことはできない。本科目では、種目としてサッカー、バスケットボール、バレーボールなどを予定する。各種目とも初心者を取り組みやすいように基本練習を中心とした内容を実施する。基本練習を通じ、運動に関する知識や健康維持につながる運動について学ぶとともに、仲間との身体を介した関わりにより他者とのコミュニケーション能力を高め、公正、協力などの社会性を身につけることを達成目標とする。	
	コミュニケーション論	私たちは日々他者と何気なく言葉を交わし、しばしば当たり前のようにコミュニケーションについて語っているが、単純な説明では言い尽くせない複雑さや曖昧さが、コミュニケーションにはつきまとっている。本科目では、コミュニケーションについて、密接に関連する言語や意味、心や感情といったことについて、深く掘り下げて考え、コミュニケーション理論の基本的な概要を理解し、人間と言語・コミュニケーションの関係のあり方を把握することを目標とする	集中
	英語基礎	英語学習の基盤を確立するため、英語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能の基礎力強化を図る。 「聞く」、「話す」: 基礎的な英会話の訓練を行う。自己紹介、観光、外食などの日常生活に密着した場面を想定して、基本的な日常会話の練習を行う。メディア教材等を用いて、ペアワークやグループワークを行い、日常生活で頻繁に使う英会話表現を学ぶ。 「読む」、「書く」: 基本的な文法を確認しながら、英文の読解及び問題演習を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎科目	教養	英語応用	英語基礎に引き続き、本科目では、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の英語4技能の応用力を強化する。 「聞く」、「話す」：文化や習慣、趣味などの日常生活で話題になりやすいトピックスについて英語を話す人々とのコミュニケーションをとる場面を想定し、より実践的な会話練習を行う。メディア教材等を用いて、ペアワークやグループワークを行い、英会話表現を学ぶ。 「読む」、「書く」：より複雑な文法を理解するため、英文の読解及び問題演習を行う。	
		情報処理演習	コンピューターや情報通信ネットワークの発達による情報化社会の到来は、日常生活や仕事の仕方は大きく変化させており、コンピューターは現代社会に不可欠な存在である。大学や企業では、データの集計や統計処理の能力、プレゼンテーション能力が必須となっており、また、日常生活ではTwitterやInstagramなどのSNSが広く利用されている一方、情報モラルの欠如が招くトラブルが社会問題となっている。このため、本科目ではネットワークを使用する際の情報モラルやコンピューターの操作、基本的なソフトウェアであるInternet Explorer(インターネットブラウザ)、Word(ワープロ)、Excel(表計算)、PowerPoint(プレゼンテーション)の使用方法に加え、大学での論文作成や企業での業務遂行に必要な学術的・社会的応用方法(論文の記述、データの集計・統計処理、プレゼンテーション手法等)について学ぶ。	
		簿記基礎	企業の経済活動は、複式簿記の技術を利用して貨幣金額により測定・記録・計算されており、経営状況を理解する上で簿記は欠かせない知識となっている。本科目では、仕訳と勘定、簿記一巡の手続き、基本的な商品売買、試算表の作成方法、決算整理、精算表・損益計算書・貸借対照表の作成方法など、基本的な商業の簿記原理と記帳、小企業を想定した決算に関する初歩的な実務を理解することを目的とする。講義の中で多くの演習問題に取り組み、実践的な能力を養う。	
		簿記応用	近年、農林業の規模拡大が進んでおり、中小規模の企業の経営状況を把握できる経営知識が求められるようになってきている。本科目では、これまでに学んだ複式簿記の原理の知識を基に、各勘定科目の意義と記入法、決算手続きなどの商業簿記の発展的な知識と、初歩的な原価計算を含む工業簿記の知識を学び、中小規模の企業を想定した簿記の実務を習得することを目的とする。講義の中では、多くの演習問題に取り組み、実践的な能力を養う。	
職業専門科目	農林業基礎	農学概論	(概要) 持続的な社会の構築に向けて、農学には新たな展開が必要となっている。本科目では、日本の農林業の現状を把握し、環境問題、エネルギー問題、担い手問題、食生活の多様化に対応した作物供給、農産物輸出、経営の大規模化、農地集積、遺伝子組換え技術など複雑にからみあう現実の課題を解決し、また、農林業が持つ環境保全や景観形成など生産以外の機能をどのように発揮させ、持続的な社会を構築するのかを考察する。 (オムニバス方式/全15回) (4) 吉村親/1回) 農業の担い手の現状と課題 (7) 中野敏之/1回) 工芸作物栽培の現状と課題 (2) 稲葉善太郎/1回) 花と緑を活用した緑化と景観形成 (17) 杉山泰之/1回) 果樹園芸の現状と課題 (23) 松尾和之/1回) 持続可能な社会と農学、人口推計と食料需給 (24) 佐藤展之/1回) 肥料と環境問題 (4) 外側正之/2回) 有害生物の防除と管理 (26) 杉山恵太郎/1回) 野菜園芸の現状と課題 (27) 祐森誠司/1回) 畜産の現状と課題 (29) 逢坂興宏/1回) 森林・林業の環境保全機能と景観形成機能 (33) 平岡裕一郎/2回) 日本林業の現状と課題 (34) 丹羽康夫/2回) 遺伝子組換え技術の現状と課題	オムニバス方式
		農林業史	日本の農林業はどのような変遷をたどってきたか。本科目では、歴史・民俗資料を活用して、農業・林業の技術史を理解し、特に遠州地域の農林業史の理解へ発展させる。最初に、農具や農業用水を取り上げ、水田稲作農耕史や技術を理解する。また、戦後の本県北遠地域を中心とした林業史について理解する。これらの知識をもとに、グループワークにより遠州地域の農林業について取りまとめた上で発表を行い、現代の農林業へ繋がっているのかを確認し、現代の課題を考察することを学習目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 農林業基礎	農林業政策	現今の食料・農業・農村基本法のもとでの、食料自給力・食料自給率の維持向上に向けた施策、食料の安定供給の確保に関する施策、農業の持続的な発展に関する施策、農村の振興に関する施策について基礎的知識を習得する。また、森林の有する多面的機能の発揮に関する施策、林業の持続的かつ健全な発展に関する施策、林産物の供給及び利用の確保に関する施策について学ぶ。現在における政策の役割及び課題について理解することを目標とする。	
	県内農林業事情	(概要) 静岡県内には、農林業を牽引する多くのビジネス経営体(企業の先進的農家)や林業事業者がある。このような先進的な経営体(事業者)の現状について学ぶことは、将来の農林業経営を考える基礎となる。本科目では、県内の農林業の現状を学ぶとともに、経営作物ごとに先進経営体の現状を事例を交えて学ぶ。 (オムニバス形式/全15回) (5 竹内隆/3回) 県内の農林業の現状とイチゴの先進経営体の現状 (6 中根健/2回) メロンの先進経営体の現状 (7 中野敬之/2回) 茶の先進経営体の現状 (2 稲葉善太郎/2回) 花卉の先進経営体の現状 (17 杉山泰之/2回) 果樹の先進経営体の現状 (18 片山信也/2回) 畜産の先進経営体の現状 (3 近藤晃/2回) 森林事業者の現状	オムニバス方式
	県外農林業事情	静岡県外には、グローバル化の進展や規制緩和、消費者の食の安全・安心の高まりなど、時代の要請を的確に捉え、積極的に挑戦している力強い経営体が数多く存在する。また、静岡県は、関東圏の市場に向けて農産物を出荷することが多く、これらの市場の動向は今後の販売戦略を考える上で重要である。本科目では、今後の農林業経営を考えるため、静岡県外の先進的な経営体、全国的な市場を訪問し、農林業の最新の状況を学ぶことを目的とする。	集中共同
	海外農林業事情	日本国内の人口減少によって食料の国内需要は減少する一方、世界では人口が増加し、世界需要の増加が見込まれている。このため、国では農林水産物・食品の輸出を促進している。農林業者が輸出に取り組むためには、輸出を行うための基本知識やグローバルマーケットの戦略的な開拓が必要であり、海外の農林業事情を把握する必要となる。本科目では、海外の先進的な経営体や農林業関連企業などを訪問し、海外の農林業の最新の動きを学ぶことを目的とする。	集中共同
	農林業のための科学	農林業は、作物、家畜、樹木などの生物を生産の対象としており、生産性を高めるためにはこれらの生物の生理生態特性や、好適な生育環境等の情報に基づいた管理の最適化が求められる。また、現場では農薬や肥料などの化学物質や大型機械を取り扱っているため、安全使用には化学物質や機械類に関する基礎的知識が不可欠である。本科目では、確かな技術力とあふれる創造力を身につけるため、科学的根拠と連動させて、一連の農作業を体得する。また、耕耘、灌水、薬剤散布、配管、配電、施肥、養液作成の理論と実際を、講義に演習を交えて学ぶ。	
	野生鳥獣管理・利用論	野生鳥獣による農作物被害金額は、平成28年度が172億円と高い水準にあることに加え、鳥獣被害は営農意欲の減退や耕作放棄の要因となっており、数字に表れる以上に深刻な影響を及ぼしていると考えられる。本科目では、鳥獣被害対策の現状と課題、国の施策の方向などについて理解を深めるとともに、事例をもとに、環境管理による「鳥獣被害に遭いにくい」地域づくりの手法について学ぶ。また、獣種毎に、防護柵の設置や駆除の方法、など具体的な被害対策の手法について学ぶ。さらに、野生鳥獣の肉・皮などの利用についても、その持続的な活用方法を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
農林業基礎	営農と農業関連法	<p>本講義では、営農活動にとって不可欠な農業関連法や社会規範に関して、営農活動との関連に関して学ぶことを主たるねらいとする。具体的には、農業一般に関する基本法である「食料・農業・農村基本法」をはじめ、農地に関する「農地法」、「農業経営基盤強化促進法」、農業生産活動と密接な関わりをもつ「農業取締法」、「肥料取締法」、「種苗法」、「商標法」、さらには「価格・流通の安定に関する法律」などである。そのうえで、栽培や作業の実践との関連に関して、営農時の実際場面を想定した中で、具体的な事例を中心に多面的に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (5 竹内隆/2回) 農業の知的財産に関わる制度と関連法 (10 五十右薫/1回) 担い手の育成に関わる制度と関連法 (11 増田壽彦/2回) 効率的・安定的な農業経営のための支援に関わる制度と関連法 (12 坂口良介/2回) 農地の利用に関わる制度と関連法 (17 杉山泰之/3回) 安全・安心な農作物の生産に関わる制度と関連法 (32 天野哲郎/2回) 新たな食料・農業・農村基本計画における生産対策として重要な諸施策(経営所得安定対策、収入保険制度、農地中管理機構、六次産業化・地産地消法)の役割と機能 (33 菊池宏之/1回) 農作物の流通に関わる制度と関連法 (31 前田節子/2回) 農作物の加工・販売に関わる制度と関連法</p>	オムニバス方式
	植物生理生態学	<p>植物は根から水や無機塩類を吸収し、光エネルギーを利用して酸素を放出し、二酸化炭素を固定して光合成を営み、有機化合物を生産している。このように、植物は動物とは異なる特有の機能と構造を備えている。本科目は、植物の成長に影響を与える光、水、温度、無機塩類などの環境、植物の構造と働き、植物のもつ光合成・二酸化炭素固定・窒素固定・代謝などの生理的機能、さらに植物ホルモンの機能など、主に高等植物一般に共通する構造と生理的機能について学ぶ。また、植物と環境は、相互に影響を与えるため、植物の環境適応のしくみや地球規模の環境変動の影響について学ぶ。</p>	
	樹木・組織学	<p>樹木は地球環境の維持・浄化に重要な役割を果たすとともに、建築材、紙・家具・用具などの資源として不可欠なものとなっている。また、生物資源である木材は再生産が可能で、使い方を誤らなければ永続的に利用可能となる資源的特質をもっているが、これらの特質は木材の適正な使用があってはじめて有効になるため、木材の科学的性質を理解する必要がある。本科目では、木質科学全般の基礎である木材の組織・構造と、それらと材質との関連について、植物分類学な科、属、種ごとの相違を理解する。さらに種内や環境によるそれらの変異を理解し、木材の有効利用に向けた林木育種について学ぶ。また、森林で収穫される椎茸等きのこ類、木炭、竹などの非木材林産物の生産・利用について学ぶ。</p>	
	畜産概論	<p>畜産学とは、人がその生産物を利用するために繁殖させる動物である家畜を人間の経済活動に活用するための技術を学ぶ学問分野である。グローバル化が進む中、畜産業は、生産効率以外に環境・生命倫理等の重要課題との調和も強く求められている。本科目は、畜産学の導入科目であり、畜産と畜産学、家畜化と品種、畜産物の生産と利用、家畜の育種・繁殖、草地利用と保全、畜産物の機能と安全性、畜産環境と排泄物資源等の畜産技術の全般的な基礎的知識を学ぶ。</p>	
生産理論(共通)	植物遺伝育種学概論	<p>(概要) 植物育種は、生産性向上など人類にとって大切な役割を担っている。その技術は、各作物の性質、繁殖様式、開花特性などを巧みに利用し、様々な育種法が研究開発されてきた。また、育種を支える基礎科学が植物遺伝学である。本科目では、前半で遺伝のしくみや遺伝子とゲノムなど育種に必要な基礎知識について学ぶ。また、後半は交雑育種、突然変異育種、栄養繁殖植物の育種など育種の基本的な技術について学ぶ。また、植物の遺伝・育種における生物工学の基礎も合わせて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (2 稲葉善太郎/7回) 植物の育種 (37 太田智/8回) 植物の遺伝、植物の遺伝・育種における生物工学の基礎</p>	オムニバス方式
	土壌肥料・植物栄養学	<p>植物の生産現場では土壌特性を把握したうえでの肥培管理等が重要である。本科目では、土壌の理化学的等の特性を学ぶとともに、高等植物の特性及び植物生産の代謝との関連、植物が成長するために必要な養分の機能、その養分の吸収・移動の機構、植物の栄養特性、肥料の種類と特性について学ぶ。また、近年、肥料と環境の問題が取り上げられることが多いため、環境負荷の少ない施肥方法について考えるとともに、土壌肥料をめぐる情勢と展望について考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (2 稲葉善太郎/10回) 植物の特性と代謝、養分の機能、肥料の種類と特性と土壌改良 (4 外側正之/5回) 土壌の種類と特徴、土壌微生物と土壌病害虫</p>	
職業専門科目	生産理論(栽培)		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 生産理論（栽培）	植物保護	植物の生産現場では、その生産に悪影響を与える様々な生物的・無生物的環境要因があるが、自然保護、自然復元などの環境科学的視点に立った植物の栽培管理や栽培環境の保健衛生の改善から、単純な薬剤防除とは異なる新しい植物保護のあり方を考える必要がある。本科目では、農作物の生産に悪影響を与える病原体、昆虫、ダニ類、センチュウ類、雑草などの種類と分類・診断の知識、生活史などの生態、それらの防除技術、農薬の種類・特性および農薬残留と登録の仕組み、植物検疫、発生予察、さらには有機栽培、IPMなど環境に配慮した植物保護技術について総合的かつ体系的に学ぶ。	
	作物栽培	食用作物には、イネやコムギ、トウモロコシなどの穀物、大豆や小豆などの豆類、ジャガイモやサツマイモなどのイモ類があるが、これらは人の活動を支えるエネルギー源となる食料を産する作物である。本科目では、イネの起源と基本的な成長、育苗と移植、分けつ期の成長、直播栽培、幼穂の発達と出穂、登熟と収穫、本圃管理と環境などの知識に加え、麦類・雑穀の形態と生育の特徴、栽培管理、マメ類・イモ類の生育の特徴と栽培管理について学ぶ。	
	茶栽培	静岡県は茶の大生産地として全国的に有名であるが、その茶は古くから特有の色と香り、滋味を楽しむ嗜好品として人々の日常生活に根付いており、健康保持による健康飲料としても愛飲されてきた。本科目では、チャの起源と分布、チャの形態、茶種と製造方法、茶葉成分の特徴、チャの生育と生態、チャの栄養生理、茶園の気象災害、茶園の枝条管理、茶園管理機、茶園の土壌管理、茶園の病害虫管理、茶園の造成、チャの育種と品種など茶の生産と流通全般に係る科学的技術を総合的、体系的に学ぶことを目的とする。	
	野菜栽培	野菜は食生活に欠かせない食材であり、野菜園芸の発展に伴い周年供給や安定生産技術が進歩してきたが、機能性や気象変動等に対応するため、生理・生態に基づく栽培技術の構築や改善は、今後ますます重要となる。本科目では、野菜の生育、環境反応、品種、栽培技術、作型・栽培体系、環境保全・省力技術、鮮度保持と流通等、野菜栽培に関する基礎知識を植物分類学、植物形態学、植物生理学、遺伝学、育種学などをもとに体系的に学ぶとともに、果菜類・葉菜類・根菜類の特性と栽培など、各論についても学ぶ。	
	果樹栽培	果樹は、水分や栄養分の摂取と嗜好品として利用されてきたが、近年、健康増進や疾病予防としての機能が注目されるようになり、消費者の健康志向の高まりとともに果実消費の向上につながると期待されている。また、国際的にもわが国の果実の品質の高さが評価され、栽培技術や品種が世界的にも注目されている。本科目では、毎年、品質のよい果実を収穫することを目標に、果樹の生育と生理現象、生理・生態と栽培技術との相互の位置づけなどの関係について学ぶ。	
	花き栽培	花きは私たちの生活に潤いを与えてくれるものであり、近年では花きへの関心が日常生活に浸透し、花き産業や花き文化の発展と振興が期待されている。本科目では、花きの分類、花き園芸の歴史について、海外との比較によりその発展過程を検証するとともに、発育生理、開花生理などの生理生態、育種・繁殖、苗生産、生育・開花調節、養液水分管理、病害虫管理などの栽培技術、品質保持などの花きに関する科学的・生産的な知識を学ぶ。	
	施設園芸	施設園芸は、園芸作物の周年安定生産・供給を可能とする集約的な栽培をする農業形態であり、日射量に恵まれている温暖な静岡県では、豊富な日射量を利用した野菜や花きを中心とした施設園芸が盛んである。本科目では、施設栽培を行う上で必要な知識として、施設の構造、施設内における光・温湿度・ガス・水分環境の特徴や、基礎的な環境調節技術、栽培管理技術について学ぶとともに、環境負荷の少ない施設園芸のあり方についても考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	生産理論(栽培)	<p>先端栽培技術</p> <p>(概要) 精密農業は、圃場内の土壌特性、作物の生育や収量のばらつきを、作物・土壌センサー、トラクタ・収量コンバイン、無人航空システム（ドローンに代表されるUAS）、衛星などの手段で位置情報付きの情報として収集し、その関係性についての科学的解析に基づいて、生産性・収量性の改善と環境負荷軽減を同時に目指す手法であり、経営規模や作目、生産環境条件の異なる様々な農家ユーザーに対して有効な農場管理システムを提供することが可能となる。また、施設園芸では、半閉鎖空間施設において園芸植物を生育させる技術が応用展開され、情報通信技術を使った栽培支援システムや、植物工場などの閉鎖型植物生産システムの普及が進みつつある。本科目では、精密農業を可能にする技術とその導入事例及び、複合環境システムや植物工場の仕組みと実際に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (② 稲葉善太郎/7回) 施設園芸における先端技術 (23 松尾和之/8回) 精密農業</p>	オムニバス方式
		<p>環境保全型農業論</p> <p>(概要) 農業生産力は、品種改良・化学肥料・農業の三大技術革新で、急激に増大する地球人口を支えてきた。しかし、利益追求や不適切な資材適用による農業生産活動が、環境汚染負荷となって生活環境の破壊ばかりか、農業の再生産にも悪影響を及ぼす事態に及びつつある。さらにグローバル化に伴う食品安全性の担保は、その生産過程にも求められる時代にもなっている。そこで、本科目では、農業のもつ多面的機能を学び、海外の環境保全産業としての農業等を範とする環境保全型農業様々な技術を学び、今後の農業のあり方について考える。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (18 片山信也/5回) 畜産堆肥を使った土づくりと化学肥料低減技術 (27 小澤朗人/10回) 環境保全型農業とは、環境保全型農業の取り組み事例、化学農薬低減技術</p>	オムニバス方式
		<p>森林計画学</p> <p>(概要) 森林は、多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、さまざまな働きを通じて私たちの暮らしを支える大切な存在であり、森林を保全し、長期的視点にたった計画的かつ適切な森林の取扱いを推進することが必要である。本科目では、これらの森林計画策定に必要な森林の現況調査、森林管理における森林GISの基本的仕組、現場への応用法、リモートセンシング技術を用いた森林計測等について学ぶ。また、森林政策の歴史、森林政策の骨格をなす森林関連法、保安林制度、森林計画制度、森林情報等の基本的事項を学ぶ。さらに、持続可能な森林管理に向けた森林認証制度等を学ぶとともに、今後の地球環境問題等の政策課題についても考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (③ 近藤晃/5回) 森林政策の歴史と制度 (29 逢坂興宏/5回) 森林調査の方法論 (33 平岡裕一郎/5回) リモートセンシング技術をもちいた森林計測</p>	オムニバス方式
	生産理論(林業)	<p>造林学</p> <p>木材供給、水土保全、保健休養、CO2吸収等の森林が私たちにもたらす恩恵である多くの生態系サービスを将来にわたって享受するためには、森林を健全に保全すると共に、その持続的な循環利用（伐採、植栽、育成・保全）を図る必要がある。本科目では、造林学の基礎となる森林づくりの原理・原則、並びに森林づくりのために行われる各種作業（地拵、植栽、下刈、除伐、間伐等）の目的や方法を学ぶ。また、広葉樹林、針広混交林、複層林等、多様な森林づくりの目的とそれに対応した施業技術について学ぶ。さらに森林景観を科学する森林風致学を概説する。</p>	
		<p>森林生態学</p> <p>近年、森林生態系機能の持続性が求められるようになり、森林資源利用の生物多様性への影響等に対する配慮が求められている。このため、森林景観が環境とどのような関係をもって成立しているかを学ぶとともに、生態系を構成する要素、生命を支える一次生産の仕組、有機物の分解など森林の物質循環を維持する仕組を学ぶ。また、近年問題となっている鳥獣被害、松くい虫被害について、現状と対策など森林保護に関する知識を学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
生産理論（林業）	木材生産システム	<p>(概要)</p> <p>森林施業プランナーの役割は、森林所有者に代わり森林経営計画を作成することである。本科目では、森林施業プランナーに必要な木材生産に関する理論、丸太の造材や材積計測、価格形成の要因、木材生産活動における自然環境に配慮した作業システム構築、林業機械の構造・性能・整備・取扱方法などの知識を学ぶ。また、経営上必要な知識である森林法における各種制度や支援制度、森林認証制度を学び、森林施業提案書の作成演習を通じて、実務に必要なスキルを身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(① 鶴飼一博/19回) 森林における作業システムと認証制度 (③ 近藤晃/6回) 森林経営と森林管理 (⑤ 池田潔彦/5回) 木材加工システム</p>	オムニバス方式
	森林土木論(治山・林道)	森林土木論は治山・砂防分野と林業土木分野からなる。治山・砂防分野では、森林山地斜面で発生する土砂移動現象(表面侵食、斜面崩壊、地すべり、土石流等)の発生メカニズムとその対策、および森林植生の有する表面侵食防止、表層崩壊防止の機能とその限界、荒地地の復元技術および森林・植生がもつ環境保全機能と景観形成機能についての知識と最新の技術を学ぶ。林業土木分野では、木材生産システムの集材工程に大きくかわる林内路網整備に関する知識(林道、森林作業道開設の目的、役割、構造等)、設計手順、現地踏査についての知識と最新の技術を学ぶ。	
職業専門科目	飼料総論	家畜は、人が利用しない・できない副産物や食品残渣等の資源を飼料として活用して、人に生産物等を与える動物である。一方、高品質な畜産物の生産に欠かせない穀物飼料の多くを輸入に依存する本邦の畜産業は、様々な飼料の性質を理解し、その栄養効率を極限まで引出しながら高品質の畜産物を生産する事で、その存在を高位維持している。飼料総論では、家畜の消化生理、飼料の物理化学性、機能性、栄養評価等の飼料の基礎知識を学ぶ。	
	家畜生理解剖	家畜の飼育に当たっては、それぞれの家畜の生理機能を理解し、その家畜の特性にあわせた飼料給与や飼育管理を行う必要がある。本科目では、家畜の体の形態や構造、消化器や泌尿器、呼吸器、生殖器などの各器官の構造を学習し、その生理機能について学習する。また、各家畜に特有の形態、生理機能を把握し、違いについて理解を深める。更に、豚、山羊及び鶏などの家畜を用いて実際に解剖を行い、器官の実物を通し、生理機構について理解を深める。	
	家畜飼養	最新技術を駆使した改良・育種技術により家畜の能力は飛躍的に向上したが、同時に、飼育技術の難度も高くなっており、能力を十分に発揮させるには高度な飼育技術が必要となっている。グローバル化に伴う食品安全等に対する消費者意識の高まりから、家畜生理に合致した飼育管理、動物福祉に配慮した飼育管理と同時に収益性も要求される時代になっている。農業分野で最も機械化された畜産分野だが、ICT、IoT、AI技術が急速に導入され、飼料生産、家畜飼養管理、ふん尿処理、生産管理技術等も急速に進化している。一方、生物実験データの提供で人に役立つ実験動物、人に安らぎを与える伴侶動物も広義の家畜として扱う産業分野も拡大しており、従来よりも高度化・広域化した家畜飼育管理技術の基礎を学び、理解を深める。	
	家畜育種繁殖	家畜は、人間の利用目的に適した形質・能力をもつように遺伝的に変化させられてきた動物であり、生産能力や繁殖性、抗病性などの点で特徴をもった様々な動物種の様々な品種の家畜が育種されてきた。また、家畜を繁殖させる場合は、より経済性の高い家畜がその対象となるため、家畜の改良を常に意識して繁殖させる必要がある。本科目では、優良家畜の選抜・交配方法などの育種の基本的知識・理論や、繁殖に関わる様々な事象、繁殖の人為的制御技術を理解することを目的とする。	
	畜産法規	畜産経営には様々な法規が関係しているため、畜産に携わる者には、畜産に関する法規の知識と理解が不可欠である。本科目では、家畜改良増殖法や酪農肉牛生産振興法などの畜産振興に係る法規、国内畜産保護のための国境措置に関する法規、家畜伝染病予防法などの家畜衛生に関する法規、食品衛生に関する法規に加え、流通飼料や畜産環境、価格対策に関する法規など、多岐にわたる畜産関係法律の概要を理解し、畜産経営に必要な法律知識の習得することを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
生産理論(畜産)	家畜衛生学	家畜衛生の最大の役割は、家畜を病気から守り、健全な家畜から生産される畜産物を食卓に届けることである。その役割を果たすには、家畜の病気にはどの様なものがあるか、どの様に感染・発症するかを知り、それらの病気を予防・防除するにはどの様な飼養管理や衛生管理を行わないといけないかの方策を立てることが必要である。また、それらの方策を立てるには、獣医師や家畜保健衛生所との連携が大切であり、関連法規も知っておく必要がある。本授業では、畜産現場において必要な家畜衛生に関する一連の知識を学ぶ。	
	畜産環境・堆肥利用論	本邦畜産業が、海外畜産業との競合に打ち勝つためには、生産物の品質向上と同時に生産効率向上につながる規模拡大が必須である。しかし、家畜排せつ物に起因する、悪臭、水質汚濁、衛生害虫等が、畜産業の規模拡大に対する大きな阻害要因となっている。さらに、昨今の環境保全意識の高まりから環境に配慮した家畜ふん尿処理技術も求められている。その一方で、安定的に産出される家畜ふん尿はバイオマス資源として注目され、バイオエネルギーの主原料として活用され始めている。そこで、家畜ふん尿のマイナス面を減らす技術、プラス面を活用する技術の基礎を学び、理解を深める。	
	人工授精論	家畜人工授精は、優良な種畜の精液を効率的に利用することにより家畜の改良増殖を推進するものであり、きわめて有効な手段である。また、家畜人工授精技術には実施者や実施場所等に関する規制があるため、その内容について把握する必要がある。本科目では、家畜人工授精の意義や現況に加え、精液採取、検査、処理・保存、輸送、注入等の方法と理論など家畜の人工授精技術や規制等について学習する。また、ウシやブタの胚移植や胚の凍結技術についても学習する。	
職業専門科目	総合実習	(概要) 水稻、茶、野菜、果樹、花き、畜産、林業の生産に関わる知識や技術を学ぶため、実習や生産現場の見学を通じ、農業現場に則した農業の実学の基本を学ぶ。また、畜産関連施設や、ICTやIoTを活用したスマート農業の視察を通じ、農林業の先端技術の現状について学ぶ。これらの実習や視察を通じて、農林業を総合的に理解する能力と態度を養う。 (オムニバス/全30回) (3 瀬戸隆弘、13 青山東一、39 貞弘恵/4回) (共同) 畜産関連施設の視察 (4 吉村親、6 中根健/2回) (共同) 作物栽培：田植え (7 中野敬之/4回) 茶栽培 (10 五十右薫/4回) 花きの栽培 (11 増田壽彦、38 大石竜/4回) (共同) 施設野菜の栽培、スマート農業の視察 (12 坂口良介/4回) 露地野菜の栽培 (14 星川健史、40 相蘇春菜/4回) (共同) 木材の樹種同定 (20 山家一哲、37 太田智/4回) (共同) 果樹の栽培	オムニバス方式・共同(一部)
	圃場実習Ⅰ(野菜)	野菜には非常に多くの種類があり、それぞれの野菜は植物形態、成長の仕方、気象条件や土壌条件への反応の仕方に特徴を持っている。本科目では、ブロッコリー、レタスなどの秋冬野菜の特徴と基本的な栽培技術、また、静岡県の特産物であるイチゴ、トマト、温室メロンの特徴と基本的な栽培技術について学ぶ。さらに、生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断の方法や、環境に配慮した栽培、環境制御技術を用いた栽培について学ぶ。	共同
	圃場実習Ⅰ(花き)	花は非常に多くの種類があり、それぞれの花きは植物の形態、成長の仕方、気象条件や土壌条件への反応の仕方に特徴を持っている。本科目では、バラ、カーネーション、トルコギキョウ、ガーベラなどの切花や、洋ラン類、観葉植物、鉢花、花壇苗などの鉢物の特徴と基本的な栽培技術について学ぶ。また、生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断の方法や、環境に配慮した栽培、最新の切花の品質保持技術について学ぶ。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 生産技術	圃場実習Ⅰ（茶）	チャの生育は、生育地の気象条件や土壌条件の影響を大きく受ける。特に、秋整枝は気象の推移や来年度の作業計画を考慮した上で実施する必要がある。本科目では、整枝や防除、施肥、茶園整備、気象災害防止などの秋冬期の栽培管理と、手揉み茶や仕上げ加工、ブレンドなど茶加工に加え、簡易な生長調査、病害虫診断、収穫物の調査を行う。また、これらの実習を通じて、生育管理、病害虫管理、肥培管理の基礎を学ぶとともに、環境に配慮した農業について学ぶ。さらに、茶文化について学ぶため、茶道の実習を行う。	共同
	圃場実習Ⅰ（果樹）	果樹では、ある年の木の生長や果実のなせ方は、その年だけでなく、翌年さらに翌々年の生育に影響を与えるため、将来を見越した成長の均衡が重要である。本科目では、果樹栽培の全般について理解するため、温州ミカンや中晩柑といった常緑果樹や、ナシやキウイフルーツといった落葉果樹の秋～冬期の栽培管理方法について学ぶ。また、生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断の方法や、先端技術の利用や環境に配慮した栽培について学ぶ。	共同
	圃場実習Ⅰ（畜産）	近年、飼育技術の向上や自動化が進んでいるが、家畜飼養の基本は、家畜の持つ生理や習性に合わせて飼育方法を工夫し、家畜の優れた能力を発揮させることである。本科目では、畜産の全般について理解するため、牛や鶏などを用いた飼育実習や簡易な調査を通じ、飼料、家畜飼養、衛生管理の基礎を学ぶ。また、畜糞を使った堆肥製造や堆肥の利用方法について学ぶ。さらに、食肉処理施設や畜産物の加工施設、スマート畜産の事例を視察し、畜産をとりまく現状を学ぶ。	共同
	演習林実習Ⅰ	林業者は、森林・林業の専門知識を持ち、それを現場の状況に応じて応用することの出来る技術を身につけることが不可欠である。本科目では、林業の全般について理解するため、林業現場における労働災害と労働安全、チェーンソーや刈払い機などの基本操作と整備方法、森林調査の方法、チェーンソーを使用した伐採などの収穫技術、基本的な造林技術、きのこのなどの特用林産物の栽培、GISなどを活用した森林情報の利用について学ぶ。	共同
	圃場実習Ⅱ（野菜）	野菜は非常に多くの種類があり、それぞれの野菜は植物形態、成長の仕方、気象条件や土壌条件への反応の仕方に特徴を持っている。本科目では、スイートコーン、エダマメなどの春夏野菜の特徴と栽培技術、また、本県の特産物であるイチゴ、トマト、温室メロンの実践的な栽培技術と栽培管理方法について学ぶ。さらに、生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断の実践と、環境に配慮した栽培への診断結果の活用方法、環境制御技術を用いた栽培管理について学ぶ。	共同
	圃場実習Ⅱ（花き）	花は非常に多くの種類があり、それぞれの花きは植物の形態、成長の仕方、気象条件や土壌条件への反応の仕方に特徴を持っている。本科目では、バラや、カーネーション、トルコギキョウ、ガーベラなどの切花や、洋ラン類や観葉植物、鉢花、花壇苗などの実践的な栽培技術と栽培管理方法について学ぶ。また、生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断の実践と、環境に配慮した栽培への診断結果の活用方法、切花の品質保持技術の実践について学ぶ。	共同
	圃場実習Ⅱ（茶）	チャの生育は、生育地の気象条件や土壌条件の影響を大きく受け、特に、初春の低温（凍霜害）による被害は、チャの収穫に大きな影響を与えている。本科目では、春期の凍霜害防止技術、茶の収穫技術、茶製造技術及び茶工場管理について学ぶ。また、生育調査や収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断の方法について学ぶ。また、これらの調査結果や診断結果を活用し、環境に配慮した栽培を実践する方法やチャの栽培分野における先端技術の導入について学ぶ。	共同
	圃場実習Ⅱ（果樹）	果樹では、ある年の木の生長や果実のなせ方は、その年だけでなく、翌年さらに翌々年の生育に影響を与えるため、将来を見越した成長の均衡が重要である。本科目では、普通温州ミカンや早生温州ミカン、中晩柑といった常緑果樹や、ナシやキウイフルーツ、ブルーベリーといった落葉果樹の春～夏期の栽培管理方法について学ぶ。また、生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断の方法や、環境に配慮した栽培への診断結果の活用方法、先端技術の導入について学ぶ。	共同
	圃場実習Ⅱ（大家畜）	家畜飼養の基本は、家畜の生理や習性に合わせて飼育方法を工夫し、家畜の優れた能力を発揮させることである。本科目では、給餌や給水運動、衛生管理、牛糞処理など牛の飼養管理や、牧草や飼料用トウモロコシの播種や収穫、調整、肥培管理、サイレージ調整作業といった飼料作物の栽培管理に関する実践的な技術を習得する。また、乳牛や肉牛、家畜ふん尿の調査・実験方法について学ぶ。さらに、環境に配慮した畜産経営について考える。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
職業専門科目	生産技術	圃場実習Ⅱ（中小家畜）	家畜飼養の基本は、家畜の生理や習性に合わせて飼育方法を工夫し、家畜の優れた能力を発揮させることである。本科目では、給餌や給水、除糞清掃、ワクチネーションなどの採卵鶏や肉用鶏の飼養管理、肥育や保育など繁殖豚の飼養管理、子豚・肥育豚の飼養管理について実習を通じて学び、中小家畜に関する実践的な飼養管理技術を習得する。また、養豚や養鶏、家畜ふん尿に関する調査手法を学ぶ。さらに、先端技術の利用や、環境に配慮した畜産経営について学ぶ。	共同
		演習林実習Ⅱ	林業者は、森林・林業の専門知識を持ち、それを現場の状況に応じて応用する技術を身が必要である。本科目では、近年の林業生産現場で求められている高性能林業機械の基本操作や安全使用、リモートセンシング技術を用いた森林調査と分析方法、保育や種苗生産などの造材技術、集材技術などの収穫技術、造林技術、森林病害虫対策や鳥獣害対策などの森林保護技術、きのこなどの特用林産物の栽培、森林情報の利用、環境に配慮した持続的な林業について学ぶ。	
		企業実習	これまでは小規模の圃場や演習林において、生産現場で必要となる基礎的な生産理論や技術を学んできた。しかしながら、実際に経済生産を行っている農林業法人の生産施設は学内の施設より大規模であるため、学んだ知識や技術を実践的レベルにするためには、優れた農林業経営体において、実地に学ぶ必要がある。本科目では、優れた農林業法人での実習を通じて、農林業法人の持つ優れた生産技術を学び、実践的な知識や生産技術を習得することを目標とする。	
		大型機械実習	農業機械のうち、トラクターは作業機をけん引したり駆動したりする機械で、農業機械のなかで最も基本となる。本科目では、トラクターの基本知識や運転操作方法、点検保守管理、農作業安全など大型乗用トラクターを扱うための基本的知識や基本的な運転技術を修得する。また、大型特殊（農耕車）の免許取得を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・基本知識：トラクターの種類と特徴、構造と機能 ・運転操作方法：運転の基本操作と安全 ・点検保守管理：トラクターの点検方法、燃料と潤滑油、各種工具の使い方 ・農作業安全：農作業事故の実態と傾斜地作業の安全 	
		GAP演習	GAP（Good Agricultural Practice：農業生産工程管理）とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組である。様々な団体により、農業者が容易に法令を解釈でき、汚染を避ける効果的な措置をとるのに役立つガイドブックであるGAP規範が定められており、J-GAPやG-GAPなどの認証制度がある。本科目では、GAPの定義や導入されている背景、GAP規範、GAP認証制度などの基礎知識について学び、GAPの実践方法について演習を通じて習得する。 （オムニバス方式/全15回） （12 坂口良介/3回）GAPの実践演習（栽培編） （17 杉山泰之/9回）GAPの定義と導入の背景、GAP規範、GAP認証制度 （39 貞弘恵/3回）GAPの実践（畜産編）	オムニバス方式
展開科目	農山村田園地域公共学	農業は地域と密着した産業であり、持続可能な産業とするためには地域社会との共同活動が不可欠である。また、農業には、生産以外の様々な多面的な機能がある。本科目では、農山村の歴史や文化、農業・農村の多面的機能とその保全、地域資源の活用の取り組みについて学び、農山村や田園空間に存在する固有の歴史、伝統、文化等について理解を深め、これからの農業・農村のあり方に考える能力を育成することを目標とする。		
	農と食の健康論	「食」は、私たちの健康に大きな影響を与え、また、「食」は農業生産によって生み出されるため、「農」と「食」は密接な関係にある。農業生産によって生み出された「食」、すなわち「食べること」は「生きること」にも通じる。本科目では、食が健康に与える影響、並びに、最近注目が集めている食品や農産物の機能性成分の種類や働きを学ぶ。また、みかんなど、機能性表示食品としての登録事例について学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （25 森口卓哉/8回）機能性成分の働きと機能性成分をもつ食品・農産物 （35 内藤博敏/7回）わたしたちの食と健康	オムニバス方式	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	食品科学	近年、食の安全性など食にまつわる様々な課題、問題が噴出しており、消費者の関心が高くなっている。農林業経営では食品に対する幅広い正確な知識、食品安全、健康に生活していくための栄養バランスのとれた食品の摂取に関する知識が不可欠である。本科目では、食品と健康とのかかわりや機能、食品の主要成分や特殊成分、食品成分の酸化や成分間反応、食品の貯蔵、食品安全をリスク学の視点から考えるための基礎知識や、化学物質および微生物からの食品汚染、最近注目が高い特定保健用食品や機能性食品、HACCPについての最新情報など、食品化学や食品衛生の基礎知識や先端的な内容について学ぶ。	
	食品加工演習	食品加工技術を用いることで、農畜産物の栄養性や嗜好性、保存性を向上させることが出来る。本科目では、最初に加工の基礎知識学ぶ。その後、農畜産物の原料処理、加工方法、各工程における機械の操作、包装方法、殺菌方法などの食品加工技術を体得すると共に、食品工場における衛生管理、工程管理、製品管理等の基本を学び、加工食品への認識を深めさせ、今後の新食品開発への基礎知識を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・穀物の加工：もち、パン、焼菓子 ・マメ類の加工：みそ、豆腐、和菓子 ・イモ類の加工：こんにやく ・魚肉類の加工：さつまあげ、ちくわ ・果実類の加工：マーマレード、ジャム ・畜肉類の加工：ソーセージ ・乳類の加工：ヨーグルト ・野菜の加工：トマトピューレ 	共同
	アグリフードシステム論	近年、生活様式の変化に伴い、外食や中食の増加に象徴される食の「外部化」が進んでいる。食の「外部化」に伴い食料・食品の供給ルートは複雑化し、「食」と「農」の乖離が進んでいる。そこで、アグリビジネスのスティックホルダーである、川上の農水産業、川中の食品製造業・食品卸売業、川下の食品小売業・外食産業、最終消費である食生活の相互関係性を前提にした「フードシステム」の観点からの分析が必要になる。本講義では、フードシステムの基礎知識と、食料の持つ問題についてフードシステムの観点から、グローバルな視点から食料問題の理解をはかることを主たるねらいとする。	
	マーケティング・販売演習	企業が消費者のニーズを知るといことは、どういうことなのか。ヒット商品の背後には、どのような仕組みがあるのか。ヒット商品の背後には、どのような仕組みがあるのか。価格が安いだけで、商品は売れるのか。生産者、卸売、小売、その三者の力関係はどのようになっているのか。広告をすれば商品は売れるのか。このような疑問に答えるのが、マーケティングである。本科目では、マーケティングの基礎知識を理解した上で、マーケティング戦略に沿った農林畜産物の商品開発や販売方法を学習する。 また、商品計画、価格設定、在庫管理、情報処理などの商品知識を深める。そして、店舗運営、包装技術、ディスプレイなどのストアオペレーションのノウハウを修得し、販売管理、経営管理などの手法を身につける。 (オムニバス方式/全30回) (15) 池ヶ谷篤、(30) 柯(栗田)麗華/18回) (共同) 販売管理の基礎 (30) 柯(栗田)麗華/6回) マーケティングの基礎知識 (31) 前田節子/6回) 農林畜産物の新商品開発	オムニバス方式・共同(一部)
	流通加工論	高度経済成長以降、女性の社会進出や家族世帯員数の減少を背景として、日本の食は洋風化や多様化、外部化が進み、大きく変化した。特に外部化が進むことで、食料・食品の供給ルートは複雑化し、生産者と最終消費者の距離が長くなり、流通・貯蔵・加工が果たす役割が大きくなっている。本科目では、近年の食生活の実態や食品流通・貯蔵・加工について果実を中心に考える。また、6次産業化についても学ぶ。	
	木材加工演習	最初に木材加工の基礎を学び、その知識を生かし木工作品の製作を行う。本科目では、椅子などの身近な木工作品の製作を行うことで、設計の仕方、作品の製図作成、木材加工の機械や道具の使い方、作成手順、安全作業など木材加工に必要な知識や技術を習得する。 <ul style="list-style-type: none"> ・加工の基礎知識：加工に使用する道具・木工機械の種類と安全作業 ・設計製図：設計製図、作品の製図 ・製作：材料の調達、設計に沿った木材の加工、組み立て 	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	木材利用・流通論	<p>林業経営の主要な目的は木材生産であるが、その木材は、建築材料や家具など様々な用途に、その特性を生かして加工・利用されている。また、買い手のニーズや市場のしくみ、木材販売の仕組みを理解し、経営計画に反映させる必要がある。本科目では、木材の特性と加工・利用の関係を理解することを目的に、木材の物理的性質や木材の保存、木質材料の製造と2次加工など木材に関する基礎知識や、世界の木材需給と流通、日本の木造住宅における在来工法、枠組壁工法等の特徴、丸太の商品力を高め、採算性を高めるための工夫について学ぶ。また、木材市場の役割・動向を学び、森林所有者、素材生産事業者、木材加工業者の状況をとらえた経営戦略の立案、販売に関する企画力を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (14 星川健史/8回) 木材の利用 (5 池田潔彦/7回) 木材の流通</p>	オムニバス方式
	農業経営	<p>農業の担い手である農業経営体は経済的利益の追求と同時に、限られた生産資源を保全・活用し、生産力を維持・向上させる社会的責務を負っている。また農業は国民に食料その他の農産物を供給するだけでなく、環境保全や景観維持などの多面的な機能を有する重要な産業である。本科目では、農業の経営方針に大きな影響を与えた農業政策の変遷や、地域資源を活用した6次産業化、農業の法人化、農外企業の農業参入などを踏まえた新しいタイプの農業経営について学ぶ。</p>	
	畜産経営	<p>本科目では、畜産が直面している国際化、担い手、環境などの諸問題と畜産経営総体との関連を分析する構造論と、個別経営の行動に焦点を当てる経営管理論について学ぶ。特に、投資計画から財務諸表の作成、経営分析とそれに基づいた経営改善計画を作成する畜産経営のシミュレーションを交えて個別経営管理手法を学ぶとともに、畜産業が直面する担い手や生産の減少などの課題と、新規就農や六次化、法人化、放牧などの課題への対処方法についても考察する。</p>	
	林業経営	<p>林業は木材を供給するだけでなく、水源涵養、水土保全、保健体養、CO2吸収等の多面的機能の役割を担った重要な産業である。そして、林業の担い手である林家・林業経営体は、経済的利益を追求する持続的組織体であると同時に、森林の生産力を維持し、生態系サービスを持続的に発揮させるための森林管理を行う社会的責務を負っている。本科目は、持続可能な森林管理と林業経営に関する知識の習得を目指し、林業の現状と課題、森林計画制度、補助金、木材生産・流通、森林環境教育、林業普及等について学ぶ。</p>	
	畜産経営演習（大家畜）	<p>畜産経営では、家畜を適切に飼育管理し生産性向上を図ることが求められる。本科目では、畜産経営で重要な飼育管理（気候への対応や畜舎構造などの環境管理、家畜の行動、家畜衛生、畜産廃棄物と環境対策など）や生産性を高めるための条件について学ぶことに加え、最近の畜産の最新技術や加工流通について、実例を交えながら学ぶ。また、近年、「動物福祉」の視点が畜産で求められているため、動物福祉の歴史・原則・評価法や環境エンリッチメントについて理解する。</p>	
	畜産経営演習（中小家畜）	<p>他の農業分野よりも投資金額が多く、売上規模も大きい利益率が低い畜産経営では、経営状況について適切に把握する能力が特に求められる。また、近年、家畜排泄物の処理と悪臭や汚水等の環境負荷の問題から経営の存続が難しい経営体も見られる。そのような中、生産から加工流通まで取り組む畜産経営体も増えており、環境対策や加工流通を意識した畜産経営が必要となっている。本科目では、実際の畜産経営体の飼育管理に必要な品種や改良、飼育形態と施設・設備、栄養や飼料、衛生と病気などの実際や、経営の基礎知識、家畜排泄物の処理や環境負荷軽減の取組やその活用、加工流通について学ぶ。また、近年、畜産経営で重要な視点となっている「動物福祉」や、ICTを利用した畜産経営などの最新技術などについても学ぶ。さらに、学んだ知識を深めるために、県内の先進的な生産者の調査を行い、調査結果をもとに、経営分析、技術分析を行い分析結果をもとに、経営改善や生産性を高めるための条件についてグループワークを通じて理解する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	プロジェクト研究	<p>本科目は、集大成の科目であり、生産現場の課題の研究を通じて、課題解決のために必要となる様々な能力を学修することを目的とする。生産現場の課題を研究テーマに定め、研究計画、情報収集、解析方法、論文作成、プレゼン手法等について教員から指導を受けながら研究を進める。随時、結果や手法について指導教員と議論し、的確に結果を解釈することを通じて、適切な研究手法を選択する能力を習得する。最終結果は論文としてまとめ、学期末に発表を行う。</p>	

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成32年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由				
				静岡県立								
				農林環境専門職大学							専門職大学新設	
				生産環境経営学部								
				生産環境経営学科					24	-	96	
				計								
				24					-	96		
				静岡県立								
				農林環境専門職大学短期大学部						専門職短期大学新設		
				生産科学科					100	-	200	
				計					100	-	200	
静岡県立農林大学校												
養成部				100	-	200						
研究部				20	-	40						
計				120	-	240						
				静岡県立農林大学校								
				研究部					0	-	0	平成32年4月学生募集停止
				研究部					20	-	40	平成33年4月学生募集停止
				計					20	-	40	